

シリーズ the グリーン購入 vol.2 『文具類』

【ちょっと待って、「グリーン購入」って？】

グリーン購入とは、製品やサービスを購入する際、環境を考慮し、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを優先的に購入することです。

杉戸町では、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」いわゆる「グリーン購入法」が施行されたことを受け、町での運用管理を推進し、全庁が一体となった環境物品等の調達を目指すため、「第2次杉戸町環境保全率先実行計画」(平成20年3月策定)において、町が特に調達を推進する物品等の品目やその調達目標を定めた「杉戸町グリーン購入ガイドライン」により、取組の更なる推進を図っています。

【改めまして、『文具類』の選び方です】

このシリーズでは、町の「グリーン購入ガイドライン」の内容と共に、国による「地方公共団体におけるグリーン購入取組ガイドライン」の内容も紹介いたします。

内容に若干の差異が生じることもございますが、各部署、出先施設・機関では、原則として、町の「グリーン購入ガイドライン」に準じるものを推進しています。

第2次杉戸町環境保全率先実行計画「杉戸町グリーン購入ガイドライン」より抜粋

品目名	着眼点	判断の目安及び判断の基準
シャープペンシル、シャープペンシル替芯(容)、ボールペン、マーキングペン(サインペン)、フェルトペン、筆ペン、マーカー、マジック、蛍光ペン、ホワイトボード用ペン)、鉛筆、スタンプ台、朱肉、定規、トレー、消しゴム、ステープラー、連射式クリップ(ガチャック、ワニクリップ、トジッパー、連発クリップ)、事務用修正具(テープ)、事務用修正具(液状)(容)、ブックスタンド、パンチ(手動)、クラフトテープ、はさみ、マグネット、テープカッター、モルトケース、レターケース、マウスパッド、カッターナイフ、OHPフィルム、ペンスタンド、絵の具(容)、墨汁(容)、のり(補充用を含む)(容)【(液状、澱粉、固形)(スプレー式は除く)】……………等	<ul style="list-style-type: none"> 再生プラスチックの使用 間伐材等の使用 再生紙の使用 <p>・配慮5 製品の包装は、再生利用の容易さ、廃棄時の負荷低減に配慮されていること。また、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること</p> <p>・配慮10 木製品については、県産木材使用のものの検討を行うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> エコマークがついているもの。(マークの下に「プラスチックの再利用」、「間伐材の再利用」、「廃木材の再利用」、「低位利用木材の再利用」、「間伐材・小径材の利用」、又は、「古紙パルプ配合率」と書かれている。) 上記を満たさないものについては、国の「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」の「判断の基準」を満たすものであること。



環境配慮型製品の選び方

文具類

(詰め替え可能な筆記具類、のり、事務用修正具 など)

Point 購入時のポイント「詰め替え＋再生素材」

1. 詰め替えが可能であること
2. 1.を満たし、本体が再生素材で作られていること



Cost コストについて「詰め替えれば割安☆」

詰め替え商品は文具の消耗する分だけ買い足せるので、本体ごと買い替えるよりも格段に安くなります。以下にいくつかの例を示します。※値段は1個当たり

品目	本体価格	替替価格	コスト削減率(2個目以降)
事務用ノック式ボールペン	84 円	63 円	25% ↓
蛍光ペン ツインタイプ (両端に太細)	72 円	52 円	28% ↓
ホワイトボードマーカー	150 円	105 円	33% ↓
スティックのり	157 円	78 円	50% ↓
修正ペン	262 円	157 円	40% ↓



ホワイトボードマーカー



ボールペン



スティックのり



Column 「詰め替えは取替えだけじゃない」

上記は詰め替え可能な文具の中でも、特に消耗部分のカートリッジを交換するタイプを取り上げていますが、右の写真のように、蛍光ペンのインクをつぼに入れて補充するタイプのものもあります。また、ラインマーカーやホワイトボードマーカーでは磨耗して書けなくなったペン先を交換できるものもあります。



Use 使用のポイント「詰め替え品は無駄なく手の届くところで」

1. 各部署への詰替品の配布

詰め替え可能な文具を利用していても、実際には詰め替えて継続的に使用されていないケースも頻繁に見られます。補充用の詰替品もあらかじめ適正な個数を各部署に配布し保管しておくことによって、必要になったときにすぐに詰め替えができる状態を作っておくことがポイントです。

2. 余分な在庫を保有しない

補充用の詰替品を適正な量だけストックしておくことは、詰め替え利用の促進になりますが、本体部分の寿命やモデルチェンジなどもあるため、補充品を過剰にストックすると使用しないまま廃棄されてしまうことも考えられます。使用状況などをチェックし、本体と補充品の数量のバランスを考慮した在庫の管理がポイントになります。



Eco 取組の背景「使い捨てはお金も資源もスペースも無駄」

庁内では、様々な文具類を使用しており、その使用総量は非常に多いため、使い捨てにしてしまうと大量の廃棄物が発生することになります。詰替品の方が本体よりもプラスチックなどの使用量が少ないため、詰替品を購入するほうが省資源につながります。

また、詰替品の方が一般的には本体を購入するよりも安価であり、詰め替えできる文具類を使用することはコスト削減に繋がります。



